

福島の未来 ぼくらの未来

鈴木 徠夢

ぼくは、電クについて、あまり詳しく考え  
たことはありませんでした。でも、原発事故  
が起きて、ぼくたちはいろいろなものを見失  
ました。幼稚園ではさまざまな規制があり、  
水は飲めなかつたし、運動会も園庭ではなく、  
体育館でした。園外活動のお芋ほりも中止で  
土や花、虫に触れてもだめでした。外で思い  
きり遊べなかつた。ぼくが通っていたテニ

2

ススクールも原発事故の影響でなくなつてし  
まいました。震災後、7年が経ち、今は外で  
友達と遊べるようになりましたが、当事を思  
い出すと、とても嫌な気持ちになります。  
、原発事故がなかつたら……  
と何度も思っています。そんなことから、電クに  
ついて学ぶようになりました。

ぼくのお家の屋根には太陽光パネルが設置  
されています。パパは晴れると、ニコニコして  
モニターを眺めながら

「今日は〇の〇円売った！」

と喜んでいきます。でも、雨の日はモニターから手につかずがかりして、太陽光パネルは、震災の停電を経験したからこそ、非常時に備えて設置しました。しかしながら、太陽光パネルは、日中しか電気を作れません。夜中に停電が起きたら、電気は使えません。足りないのは、ちく電装置なのです。

「ぼくが考える未来エネルギーは、とてもシンプルです。全ての自転車にちく電装置を付けるのです。ぼくたちは、毎日、自転車で遊びに行きます。遊んでいるから発電します。ちく電は、缶コーヒーくらいのサイズの乾電池で、ハンドルに簡単に取り付けられます。自分の家の目の前の電柱に補充できるのです。ぼくが作った電気を電力会社に提供して、ぼくはおこずかいをゲットできるわけです。これは最高に嬉しいです。走るトレーニングマシンにも発電装置をつけて、発電ジムを作ります。ダイエットしたいママにも、おこずか

いも」とほしいパパにも、みんなに嬉しいデジタル  
ムです。そして何より地球にやさしいエコな  
ジムです。また、運動する人が増えることに  
より、人々は、健康な生活を送ることでもでき  
ます。ほくたちが地球を守っているというモ  
チベーションを持ち続けることも、やがては  
人々の絆を深めていくでしょう。

未来正エネルギーは、「負の遺産」と言われ  
る福島からほくたちの手で開発したい。そし  
て全世界に発信したい。福島の未来は明るい  
のです。ほくたちがお互いに知恵を出し合  
い美しいこの土地を守っていくからです。